

私立 千葉商科大学付属高等学校 シラバス

英語科「論理・表現Ⅰ（１年普通科特進選抜コース）」	単位数	4単位	学科	普通科
	学年	1年	組	F組

1 学習の目標、評価の観点、内容及び評価方法

学習の目標	1. 文法・表現の知識を定着させ、英語の基礎を作る。 2. 多様な形式の問題演習や発話・表現活動を通して主体的に英語を用いる。
-------	--

育成する資質能力	「向上心」・「思考力」・「判断力」・「表現力」
学校ルーブリック項目	「向上心」「自律」「自己肯定感」「友愛」「創造性」「社会貢献」「思考力」「判断力」「表現力」「人間関係力」

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	文法事項を正しく理解し、知識として定着できているか。	習得した文法知識を用いて思考・判断を必要とする問題に取り組んだり、「書く」、「話す」の形で表現活動ができているか。	・ 予習した状態で授業に臨み、授業後に復習をしっかりと行っているか。 ・ 授業に能動的に取り組んでいるか。
評価方法	定期考査 100%	定期考査 100%	・ 課題提出 50% ・ 授業参加姿勢 50%
配分	約 50%	約 40%	約 10%

2 学習計画・使用教材

学期	学習内容	学習のねらい	備考（特記事項、他教科との関連など）
第1学期	第1章 文型	第1章 文型 英語の基本的な文型（SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC）を理解し、語順の重要性を認識します。これにより、正確で自然な英文を作成する基礎を築きます。	教科書 Vision Quest と副教材高校リード問題集 A を併用します。
	第2章 文の種類	第2章 文の種類 平叙文・疑問文・否定文・命令文・感嘆文の基本的な形を理解し、文の種類に応じた適切な表現を使い分けられるようにします。	
	第3章 基本時制	第3章 基本時制 現在形・過去形・未来形の使い方を理解し、時間の流れに応じた適切な	

	第 4 章 完了時制 第 5 章 助動詞 第 6 章 受動態	時制を用いて表現できるようにします。 第 4 章 完了時制 現在完了・過去完了・未来完了の意味と用法を学び，過去・現在・未来の出来事をより詳細に表現できるようにします。 第 5 章 助動詞： 助動詞（can, may, must, shall, will など）の基本的な意味やニュアンスの違いを理解し，状況に応じた適切な表現ができるようにします。 第 6 章 受動態 能動態と受動態の違いを理解し，受動態の構造を正しく使いこなせるようにします。また，受動態が用いられる場面やその意図を考えながら表現力を高めます。	
第 2 学期	第 11 章 関係代名詞 第 12 章 関係副詞，複合関係詞 第 13 章 接続詞	第 11 章 関係代名詞 関係代名詞（who, which, that, whose, whom）を用いた節の役割と使い方を理解し，文の結びつきを強化する表現ができるようにします。 第 12 章 関係副詞，複合関係詞 関係副詞（when, where, why, how）を用いた文の作り方を学び，時・場所・理由・方法をより明確に表現できるようにします。また，複合関係詞（whoever, whatever, whichever, whenever, wherever, however）の意味と用法を理解し，より高度な表現力を身につけます。 第 13 章 接続詞 等位接続詞（and, but, or, so など）と従位接続詞（because, if, although など）を正しく使い，文と文を適切に結びつける力を養います。また，文章の流れを考えながら，論理的に情報を伝える力を向上させます。	教科書 Vision Quest と副教材高校リード問題集 A を併用します。

	第 14 章 句と節，文の転換 第 15 章 比較 第 16 章 仮定法	第 14 章 句と節，文の転換 句（名詞句・形容詞句・副詞句）と節（名詞節・形容詞節・副詞節）の違いを理解し，適切に使い分けられるようにします。また，文の転換（直接話法と間接話法，能動態と受動態など）を学び，表現の幅を広げます。 第 15 章 比較 比較級・最上級の基本的な形と意味を理解し，程度の違いを適切に表現できるようにします。また，倍数表現や「the 比較級 ～, the 比較級 …」の構文を用いた応用表現を習得します。 第 16 章 仮定法 仮定法過去・仮定法過去完了を用いた表現を理解し，現実と異なる状況を適切に表現できるようにします。また，「If I were you, …」「I wish …」など，日常的な場面で使える仮定表現を習得します。	
第 3 学期	第 19 章 特別な表現 第 20 章 名詞，冠詞	第 19 章 特別な表現 慣用表現やイディオム，決まった構文（It is ～ for … to ～ / There is ～ / so … that ～ など）を学び，英語らしい表現力を身につけます。また，フォーマル・インフォーマルな表現の違いを理解し，適切な場面で使い分けられるようにします。 第 20 章 名詞，冠詞 可算名詞・不可算名詞の違いや，a / an / the の用法を理解し，適切な名詞・冠詞の使い方を習得します。	教科書 Vision Quest と副教材高校リード問題集 A を併用します。

	第 21 章 代名詞	また、単数・複数の変化や、特定・非特定の概念を表す際のルールを学びます。	
	第 22 章 形容詞，副詞	第 21 章 代名詞 人称代名詞・所有代名詞・指示代名詞・不定代名詞の用法を学び、文脈に応じて適切な代名詞を使えるようにします。また、代名詞の一致や、強調のための再帰代名詞の使い方も習得します。 第 22 章 形容詞，副詞 形容詞と副詞の基本的な役割と語順を理解し、適切に修飾できるようにします。また、比較級・最上級の形や、副詞の位置、頻度副詞（always, usually, sometimes など）の使い方を学び、正確な表現力を高めます。	

使用教科書	啓林館『Vision Quest English Logic and Expression I Advanced』
副教材	・数研出版『チャート式基礎からの新々総合英語』 ・桐原書店『Next Stage』 ・教育開発出版『高校リード問題集 A』 ・リクルート『スタディサプリ』

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	予習・授業・復習のサイクルをしっかりと確立させましょう。3つのステップを1つ1つ確実に踏むことが定着のカギになります。反復練習を根気強く何度も行いましょう。英語という言語の習得には「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」といろいろな形で触れることが不可欠です。教科書を使った勉強だけにとらわれず、様々なことに興味・関心を持ち、日頃から広くアンテナを張って下さい。「知りたい」、「理解したい」、「できるようになりたい」という気持ちを大切にしてほしいと思います。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	予習をした状態で授業を受けて下さい。ただ機械的に座って授業を「聞く」のではなく、予習をして疑問に思ったところや分からないところ、関心を持ったことを「聴く」姿勢で授業に臨んでください。もちろん積極的な質問は大歓迎です。私語・居眠り・周囲の人に迷惑をかけることは当然認められません。授業は生徒だけのものでも教員だけのものでもありませんから、お互いに学びのある授業にしましょう。
その他のアドバイス	「英語を学ぶ」ことだけに重きを置くのではなく、「英語から学ぶ」ことも増やしてください。もちろんそこでは英語以外の教科（理科や社会）の知識が必要になる場合があります。教科を横断したダイナミックな学習ができるのが英語の「楽しさ」の1つです。1年間の授業を通してその「楽しさ」を存分に味わってほしいと思っています。教科書にある単語をただ追いかけるのではなく、内容に触れ、社会問題について考えるなど、一步踏み込んだ学習をしています。尚、物事には順序というものがあります。四技能が大切であることは間違いありませんが、いきなり

	全てを向上させようとしてもそれは難しいです。当面は、「四技能以前」のことをしっかりやり、 まずは基本的な能力をしっかり伸ばしましょう。
--	--